

葬祭業者名	B社
調査日	2018年2月26日

花祭壇の開始時期と近況

花祭壇の開始時期	昭和60年頃から
花祭壇の種類	決まっていない（利用者の要望次第）
花祭壇の利用者数	月間40組
花祭壇と白木祭壇の割合	花祭壇：白木祭壇 = 5：5
花祭壇は、家族葬と一般葬どちらが多いか	家族葬

- ✓ 基本的に白木祭壇に生花を飾るプランがほとんどを占めています。
- ✓ 昨今では、とくに家族葬の割合が増えてきて、喪家の希望により、小さな祭壇を使うことが多くなってきています。

近年の花祭壇の傾向

- ✓ 故人様が好きだった花を入れて生花祭壇を作り、用いられた方から涙を流してお礼を言われた時、この仕事をしていて本当に良かったと改めて感じます。
- ✓ 小さな祭壇を使うことが多くなり、短時間で小さめの生花の飾り付けによって対応できる花祭壇のニーズが増えています。
- ✓ 家族葬の増加や、ご葬儀にあまりお金を掛けなくなってきた近年の風潮から、祭壇への生花の飾りつけは年々縮小されてきている印象があります。
- ✓ 今後は葬儀の小規模化が進む中で、いかに喪家様ごとの要望に対応していけるか、またオリジナル感が出せていけるかが一番重要なことだと考えています。

花祭壇で用いる花について

主に使用する花（色）	キク（白）、ユリ（白）、カーネーション（桃）、トルコギキョウ（紫、緑、桃）
使用する花の長さ	20～45cm（基本長は30cm）
使用する花の形状	特に決まり無し
好まれる花	トルコギキョウ、ユリ、カーネーション
好まれる色	白、薄い桃、淡い色
使用する花の産地	メインは国産（愛知県渥美半島産）
産地の割合	国産：輸入 = 8：2
仕入れの方法	卸・仲卸から
標準的な花祭壇で使う花の量	10種類
標準的な花祭壇で使う花の本数	84本
使用する花に求めるもので、特に重視するもの	色、品目、品質

花祭壇作りについて

作り方で重視するポイント

- ✓ 花祭壇の注文を受けてから作るまでは時間が短いため、短時間できれいに作ることに心がけています。家族葬や日にちに余裕のある社葬やお別れ会などは、故人様や喪家様の希望にとくに沿えるようにしています。
- ✓ 家族葬などより規模が小さい花祭壇ほど花祭壇をじっくりとみられやすいため、白木祭壇より緊張感をもって祭壇を作るとともに、品質の良い花を選ぶ重要性が大きくなっていると感じています。

使う花の種類・量・形について

- ✓ 葬祭業者、葬祭業者の子会社で花祭壇を作る当社とは別の花屋に花を発注して調達しています。

使う花の産地、良品質な花の調達について

- ✓ 基本的に、国産しか使わないようにしています。国産を使う一番大きな理由は、品質や日持ち性の面で優れていることです。

関連企業との協力と技術の向上について

- ✓ 花祭壇を実際に作るのは、子会社1社と協力企業3社の計4社です。祭壇の生花を飾り付けています。これは、葬儀会館が県内各地に多数点在しているため、1社だけでは手が回らないためです。これら4社が、花祭壇作りでお互いに切磋琢磨し、技術の研鑽に努めています。